

# 死闘を制して初V

## 最終18番で逆転バーディー

《第56回九州女子選手権競技》

～熊本ゴルフ倶楽部城南コース

通算6アンダー 210

研修生・松永 七海（22歳、花祭）



【初優勝の松永と母・寛子さん】

最後は3日間54ホール目の「バーディー・ボギー」で決着した。通算7アンダーで最終日をスタートした最終組の松永と荒木七海（グリーンランドリゾート）は追いつ追われつのゴルフを展開し、17番を終えた時点で荒木が1打リードしていた。18番は527ヤードのロング。松永は「悔しい思いをしたくない。今大会で一番振りました」と得意のドライバーショットは300ヤード超え。残り208ヤードを4Uで2オンに成功する。荒木は3オン。お互い2パットでプレーオフの可能性が高かったが、そうは

ならない。

松永は下りの10mのイーグルパットを気合が入り過ぎたのか6mもオーバー。荒木は1mほどに寄せる。ここからである。「自分でも驚くほど落ち着いていた」松永のバーディーパットはカップに吸い込まれ、荒木のパーパットは外れた。

「劇的でしたね。(優勝は)本当に気持ちいい」と松永は死闘を振り返った。松永と荒木が同じ組でラウンドするのは2024年の日本女子アマチュアの最終日以来。この時は松永が69で回り、3位に食い込んだ。荒木は76で11タイ。仲のいい両選手は今大会のラウンド中も終始、笑顔で会話を楽しんでいるように見えたが、ハートは燃えていた。「負けたくなかったですからね」と松永はアスリートの本音もチラリ。

初のビッグタイトル。昨年の日本女子学生では2日目が終わった時点で首位タイに並び、最終日最終組ながら第3ラウンドは73で4位タイに終わった。「いつも最後にやらかす。優勝?佐賀県のジュニア以来でしょうか」と笑った。

佐賀県神埼市出身。ゴルフは父・和浩さんの影響で始めた。長崎日大高から日大に進学。現在はグランフィールドズCC(静岡県三島市)で正社員の研修生として、次女・藍(日大ゴルフ部3年)と一緒に暮らす。三女・帆加もゴルフに励む。「妹たちには負けたくないですね」と笑いながら長女としてのプライドものぞかせる。日大2年冬に椎間板ヘルニアを患い、減量のためにウエイトトレに励んだ。22kgの減量に成功し、体はシャープになり、切れも出てきた。その成果はドライバーの平均飛距離270~280ヤードが示す。

身長は173cmと体格に恵まれ、目標とするプレースタイルは「飛ぶ方なので怖がらずに果敢に攻めていきたい」というアグレッシブなゴルフだ。現在、米国の女子プロゴルフツアーで活躍する竹田麗央とは同じ年で、ジュニア時代にはしのぎを削った。

「(日本での試合で)たまに応援に行くこともあったけど、追いかけていきたい」とレベルアップを目指す。日本女子アマには「優勝」を掲げ、今年最大の目標は「プロテスト合格」。昨年は最終テストまで残りながら4打足りずに涙をのんだ。今回の優勝で「ちょっと成長したかな」と遅れて来た大器が前へ突き進んでいく。



《熊本ゴルフ倶楽部城南コース》

